

沖縄情報通信ハブ 国際シンポジウム 開催について

去る3月27日、28日の2日間の日程で名護市のザ・ブセナテラスビーチリゾート・ホテルにおいて、沖縄情報通信国際シンポジウムが開催されました。

本シンポジウムは、沖縄県の持つ投資環境等の魅力や将来性を広くピアーラーするとともに、「沖縄経済振興21世紀プラン」中間報告で示された「沖縄国際情報特区構想」の検討状況を説明し、広く意見を聴取して県内への情報通信関連産業の誘致を活発化させることを目的に開催されたものです。

稲嶺恵一沖縄県知事の挨拶、広瀬勝貞通商産業事務次官等の基調講演の後、パネルディスカッションが行われ、島田晴雄慶應義塾大学教授をコーディネーターに内外からのパネラー5人による各々の地域や国における、これまでの情報化進展のための施策・現状等について活発な討議が行われました。

マルチメディア・スーパー・コロニー計画の戦略を説明。戦略の基本は、ワールドクラスの企業誘致政策であり、ワールドクラスに刺激されローカル企業もワールド企業に成長することを期待したこと。そのためサイバーポート（法体系）の整備インフラ整備ワントップ・シティ機能のある開発公社の存在など、スマートブロックにより多くの技術と能力を集めさせることで、目標実現に向かって現在も進展中とのことです。

類似する沖縄でもその必要性を説いた。また空港へのアクセスや英語、運営コスト、太平洋の市場、起業家支援策、教育環境のほかに経済の規模と電子商取引の成長を促す施策の重要性を説いた。

1 取り組み状況（パネルディスカッションの主な報告・提言等）
マレーシア



日本

世界各国が情報ハイウェイを取り組む中で日本は通信インフラ、労働者、地理条件等が備わる沖縄にて、トワーク社会の情報拠点として世界に向けた「出島」を作るべきとし、分野としては、「アルセンターの顧客管理システム」や「データハウスなど示唆した。

2 最後に

各パネラーからのこれら報告・提言等を受けて「アーティセンターの島田氏は、各発表者の共通事項としてヒューマンリソース・デベロップメントが重要なとし、不断にその水準を上げていくレベルアップしていくべきハイレベル工場を

アメリカ

ホームページアドレス
<http://www.ogb.go.jp/johoshimpou/>

ショントリーフィーの仕組みを作つてハイレベルな知識を活用して吸収するような産業を育てていくことが特に重要なポイントである」とと、沖縄は、日本の中ではマルチカルチャーで諸外国の人がありやすく、ヒーマンリソースを活用するとき一番重要なアクターになり、それが沖縄の最大の強みであると取りまとめた。

3 その他

